

## 東アジア古代の服飾の図像学と考古学 Iconography and Archaeology of Ornaments of Fashion in Ancient East Asia

東 潮<sup>\*1+</sup>, 市元 塁<sup>\*2+</sup>, 大谷 育恵<sup>\*3+</sup>  
Azuma Ushio<sup>\*1+</sup>, Ichimoto Rui<sup>\*2+</sup>, and Otani Ikue<sup>\*3+</sup>

\*1 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 徳島市南常三島 1-1

The University of Tokushima Institute of Socio-Arts and Sciences

1-1, Minami jyosanjima-cho Tokushima, Japan

\*2 九州国立博物館

Kyushu National Museum,

\*3 金沢大学大学院人間社会環境研究科博士後期

Kanazawa University Graduate School Human and Socio-Environmental Studies

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : We are researching ornament of the fashion materials for the ancient medieval east Asian various countries, various race by the method concerning a study of the Iconography and the Archeology. Because of that, we investigated the remains of the Liaoning (遼寧), Neimenggu (内蒙古), Shangxi (陝西) and Xinjiang (新疆) in China .

### はじめに

本研究は、古代中世東アジア諸国・諸民族の服飾資料(壁画、装身具、陶俑、装身具等)を図像学的、考古学的方法によって分析し、民族と服飾、衣冠制、身分制、諸民族の交流関係などの問題を明らかにすることにあつた。フィールドの対象地域はモンゴル・中国・朝鮮韓国・日本の東アジアである。平成 22 年度の外国調査の概要を報告する。

### 調査研究とその成果

**第1次外国調査** 平成 22 年度の 11 月 15 日～11 月 22 日、中国遼寧省・内蒙古自治区において実施した。遼寧省大連の営城子の漢墓壁画博物館で漢魏の服飾、内蒙古自治区の赤峰博物館では青銅器時代から遼・元・清の服飾を調査した。内モンゴルの巴林左旗では遼代皇帝陵の慶陵・懷陵、陵園の慶州城・懷州城、元の上都を踏査した。

現在、遼の皇帝陵園、遼代壁画の調査が内モンゴルの遼寧省の各地で発掘調査されている。2007 年に「遼代壁画資料」(『人間社会文化研究』14)の集成をおこなったことがある。今年度の調査成果をふまえ、最新の河北省宣化下八里壁画墓などの報告書を分析し、遼代の服飾についてまとめる。唐・宋遼の服飾を比較する。

---

\*1) azuma@ias.tokushima-u.ac.jp

**第2次外国調査** 平成 23 年 1 月 8 日～1 月 15 日、新疆ウイグル自治区のカシュガル、クチャ、ウルムチにおいて遺跡・遺物の調査を実施した。

新疆ウイグル博物館では、〈西域の服飾〉の特別展が開催されていて見学した。新疆トルファンやニヤなどから出土し服装の実物が展示されていた。新疆各地の服飾資料が集大成して展示されていた。特別展図録は発行されていない。撮影禁止であった。

クチャではキジル石窟寺院の壁画を観察した。西方のガンダーラ仏教美術と東方の漢唐文化の接点となる地域である。漢の西域都護府、唐の安西都護府の推定地を踏査した。

**第3次外国調査** 平成 23 年 2 月 17 日～3 月 1 日、中国河南省から陝西省の各地で遺跡・遺物の調査をおこなった。河南省洛陽市文物局で北魏～隋唐期の服飾資料、陝西省西安の陝西省歴史博物院、西安博物院、咸陽市博物館で漢～唐代の服飾関連資料の調査をおこなった。

とくに鮮卑族の南遷と北魏建国問題についての研究をおこなう。大同智家保墓壁画には牧畜民・パオが描かれた北魏初期の壁画墓である。三燕墓の画像と比較する手がかりをえた。

## おわりに

平成 22 年度は共同研究の前提となる、遼寧・内蒙古・河北・陝西・新疆地域を踏査した。漢～唐、遼代の服飾画像を調査した。次年度は、モンゴルと中国新疆ウイグル自治区北部地域の阿勒泰の匈奴、スキタイの服飾に関する調査研究を計画している。現在の諸民族の服飾、さらに歴史上の諸民族の服飾を壁画画像を分析して比較研究する。なお『高句麗壁画と東アジア』を刊行した。中国古代、朝鮮古代、日本古代の壁画画像研究の基礎的資料で、それらをもとに本研究を遂行する。

## 文献

1. 東潮:「東アジア古代の王権・王陵・境域」, 人間文化研究機構連携展示アジアの境界を越えて, pp.178-185 (2010), 国立歴史民俗博物館 2010 年 7 月 13 日～9 月 12 日, 国立民族学博物館 2010 年 10 月 14 日
2. 東潮:「三国志東夷伝と天下観」, 邪馬台国—九州と近畿, 大阪府立弥生文化博物館図録」44, pp.64-71 (2010)
3. 東潮:高句麗壁画と東アジア, 学生社 (2011)
4. 大谷育恵:「三燕金属製装身具の研究」, 金沢大学考古学紀要, 32 号, 金沢大学人文学類考古学研究室, pp.87-1105 (2011)